



こども発達支援室だより

2021.8

こども発達支援室では、こどもの理解を深め、発達や育ちを支える環境づくりに努めています。

今回のたよりでは、発達支援室のメンバー紹介、最近よく耳にするHSC（敏感で繊細なこども）についてお届けします。

臨床心理士:発達に関する心理面接を行い、発達の課題や特性を明らかにし、関わり方や支援について助言します。



教員:学習や生活面でつまづきを抱えるお子さん・ご家族に寄り添い、より充実した学校生活が送れるよう支援します。



保育士:集団行動が苦手、友達とトラブルになるなどの問題に、園や家庭と一緒に考えながら、こどもの成長を育むお手伝いをします。



保健師:こどもの発達や健康に関すること、こどもをとりまく家族を含めた相談事など、発達にまつわる全般的な相談に応じえています。



庶務担当:関係機関との連絡調整など、途切れない支援の一助を担っています。



※こども発達支援室は、さまざまな専門性を持つメンバーで構成されています。お子様の状態に応じて、必要な支援につなげています。必要に応じて、児童精神科医師、言語聴覚士にもつないでいます。

HSC (Highly Sensitive Child の略) とは

生まれつき敏感で繊細な子どものこと。障がいではなく生まれ持った気質の一つ。

5人に1人とされています

HSCの4大特性(4つすべてが当てはまるのが条件)

- 物事の考え方が深い ⇒ いろいろな可能性を考えて慎重になり、決断・行動しにくい
- 過剰に刺激を受けやすい ⇒ 楽しいはずのイベントが、刺激が多く疲れてしまう／痛みに敏感
- 感情の反応が強く、共感しやすい ⇒ 兄弟を叱っているのに泣き出す／ペット等の死をいつまでもひきずる
- 些細な刺激を察知する ⇒ 音、におい、味の違いや、人や物の些細な変化に気がつく

どう対応すればいい? 対応のポイント

- 味方であることを積極的に伝える ⇒ 常に様々な不安を抱えている傾向にあるため、集団生活で苦手なことに直面し、自分を責めがち。いつでも見守っていること、味方であることを伝えて安心につなげる。
- 独特の感性を認めてあげる ⇒ 物事を深く考えるため、周りが受け流すことも気になる。ありのままの感性を認めてあげ、自己肯定感を高めることで、いろんなことにチャレンジできるようになる。
- おやみに叱らない ⇒ 気持ちにムラがあることが多いため叱られやすい。しつけのために叱ることは極力せず、粘り強く見守る姿勢を。
- 無理をしていないか見守る ⇒ 人の気持ちに敏感なため、親に心配をかけたくないという無理をすることも。こどもが不安に思っていることを話しやすい環境を作り、見守る。

★HSCという気質をネガティブに捉えるのではなく、「感受力」「繊細力」というポジティブな捉え方もできます。繊細で気づかいができ、他者への共感力が高いというのは長所です。良き持ち味となれるよう、安心できる環境づくりをしてあげたいものです。

お問い合わせ・相談: 伊勢市こども発達支援室(八日市場町 13-1 福祉健康センター3階)

TEL: 63-5444 FAX: 27-0058 Email: kodomohattatsu@city.ise.mie.jp

